

(別紙1)

世界法学会 2021-2023 年度研究大会・中期企画コンセプトについて

2020 年 9 月 20 日

※本文書は、世界法学会企画委員会の議論を踏まえて、企画主任（小畑郁）の責任でまとめたものです。

1. 企画コンセプト・タイトル

「世界秩序の危機と再生」

2. 趣旨

第2次世界大戦後の世界は、国際連合とブレトン・ウッズ機構に代表されるように、普遍主義的秩序が全般的コントロールしている状態であった。この状態は、冷戦の崩壊によって、ついに一元化するようにも思われた。実際、経済のグローバル化が顕著となり、世界貿易機関(WTO)の成立やそのメンバーシップの普遍化といった状況も出現した。

しかし、冷戦崩壊から 30 年を経過して、世界は明らかに新たな危機に直面している。その一つの震源地は、明らかに超大国化しつつある中国であるが、ヨーロッパでも、ドイツより東の地域で自国中心主義的な動きが顕在化している。このような危機への対応とも考えられるのは、米国の自国中心主義であり、それは、軍備管理、経済、環境といった分野で、ついに世界の普遍主義的な秩序を壊しかねない帰結をもたらしている。

世界法学会は、第2次世界大戦の惨禍、核兵器の登場といった状況をうけて展開してきた、世界政府ないし世界連邦運動について、その理論的基礎を研究することを目的として創られた。今日、本学会としては、世界秩序の危機と向き合い、その破局化を防ぎ、世界秩序の再生への展望を探ることが求められているであろう。そのために、さまざまな現象の分析とともに、これまでの世界秩序にかかわる思想的諸潮流のなかから、展望を見出し、していくこととしたい。こうした考えの下、3年間の中期計画で研究活動を展開したい。

(以上)